

世の中に無駄なものはない

先端建設技術センター 佐藤 直良氏

設立から四半世紀にわたり、建設ロボットなど数多くの技術的な課題に先進的・分野横断的に取り組んできた先端建設技術センター(ACTEC)の新理事長に、6月13日付で元国土交通事務次官の佐藤直良氏が就任した。「現場の仕事はいくら機械が入っても、機械だけではできない」と、最先端の機械や通信技術を導入しながら、人の能力を高めていくようなシステムづくりを掲げる佐藤理事長に今後の事業活動の方向性を聞いた。



——就任の抱負は
「現場の工夫、培った感覚など、ICTに限らない新しい技術を社会の中で進化させていく主体の1つが、ACTECである」と使命感を感じている。これまでも取り組んできた各プロジェクトに関する調査・研究も大切だが、全体的な視点で、例えば品質・安全・工程に配慮した生産性向上など、建設業全体に関わる共通の課題に取り組まなければならない」

——建設リサイクル分野で

新理事長 Interview

の取り組みについて
「世の中に無駄なものはない。建設分野では、もはやリサイクル・リユースの時代ではなく、機能を高め新しい価値を持たせる段階に入った。無駄だと思われているものを他分野も含めた何かと結びつけて、世の中に貢献できるような建設副産物の姿を目指す」

「ACTECでは、1992年から建設副産物リサイクル広報推進会議の事務局を担当しており、再資源化率の維持向上に向けて広報に取り組んでいる。成果が上がっている分野がある一方で、建設混合廃棄物の再資源化率は58・2%にとどまっていることから、現場からの搬出時の適切な処理・分別をさらにPRしていきたい」

——建設産業以外との連携は
「建設分野の強みと他分野の強みを融合するイノベーションの橋渡しを担いたい。ニーズを適切に認識することで、社会資本もいろいろな機能を持つことが明確になる。例えば、三陸沿岸道路は東日本大震災時に単純な交通機能でなく、命を救うインフラとなった」

「2018年度予算編成の骨太方針でもさまざまなものをつなげる新たな産業システムへの変革を推進しており、先端建設の研究開発を積極的に進めたい。特にグーグルなどが行って

イノベーションの橋渡しを

いる量子コンピューターベースのAI(人工知能)活用の広がりによって、複数分野に関わる研究アプローチが一般化することが想定される」

——海外展開について
「15年9月から2年続けてタイのバンコクで日本の先端建設技術を、現地の産学官の関係者に紹介するセミナーを開催している。セミナーは好評を得ており、現地企業とのビジネスにつながる動きも出てきている」

「海外展開のポイントは触れて、実践してもらうことだ。単にパンフレットだけでなく、ACTECが海外とつなぐツール、場を提供することで、海外展開を目指す企業を現地の実情に適合した実証事業支援などでお手伝いしていきたい」

(さとう・なおよし) 東工大院理工学研究科(土木) 修了後、1977年4月建設省(現国土交通省)入省。中部地方整備局長、河川局長、技監、事務次官を歴任。神奈川県出身、64歳。

記者の目

インタビュ어의冒頭、「社会が管理型になりすぎて、社会全体が萎縮しているのではないかと指摘するなど、丁寧な語り口だが内容は鋭い。話の例示は建設業にとどまらず、自動車産業など幅広く、全産業を俯瞰(ふかん)した上で取り組みを見据える。「これまで多くの方にお世話になったし、いろいろなことを教えてもらった。今度私が社会に恩返ししたい」という気持ちを持っている」と、語る目に偽りはない。